



従業員のニーズに合わせた 継続投資教育に取り組むDC担当者の 思いとは

NPO 法人 確定拠出年金教育協会

NPO 法人 確定拠出年金教育協会は先日、DC 加入者一人ひとりのニーズに合わせた継続投資教育を実施する事業会社の取り組みを見学させていただいた。社名非公開で紹介する許可をいただき、DC 担当者へのインタビューを交えながら対話相談式セミナーの様をお届けする。

対話相談式セミナーを実施する狙いとは

その事業会社では2018年にマッチング拠出制度を導入。マッチング拠出の利用者を増やす目的で2018年度は運営管理機関とタイアップし集合研修を実施してきた。

2019年度は、2018年12月～2019年1月のマーケット変動を受けて、対話相談式セミナーで「資産保全と運用商品の分散」をテーマに継続教育を行うことを決定した。

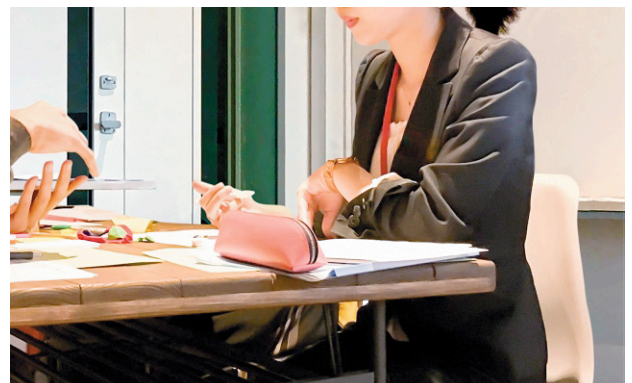
「数年間にわたり右肩上がりのマーケットで順調に資産を増やしてきたDC加入者の方に、2018年秋以降のような波乱相場でのDCとの付き合い方を考えてほしいと思ったことがきっかけでした」と、同社のDC担当者は今回のセミナーを企画した理由を語る。

実は同社が対話相談式セミナーを実施するのは初めてではないという。2016年夏に企業型DCへの理解を深める目的で、少人数形式の対話相談式セミナーを実施した際、質問しやすく制度のことがよくわかったと加入者から好評を得ていたのだ。

対話相談式セミナーの内容とは

今回の対話相談式セミナーに参加した加入者の中には、リーマン・ショック以降にDCに加入し外国株式100%の投資信託で大きく資産を伸ばした従業員もいた。

「それでもリスクを十分理解した上で商品を選択しているのならば問題ないのですが、必ずしも理解している従業員ばかりではないように思っています。DCが老後のための資産であることを考えると、分散投資について学んだ上で商品を選択してほしいと考えているのです」（同担当者）。



※写真はイメージです。

そこで今回の対話相談式セミナーでは、運用会社を講師に招き、J-REIT（不動産投資信託）やエマージング債券、および純金ETFなど、伝統的4資産（国内株式・国内債券・海外株式・海外債券）以外の資産クラスについても特徴を紹介。過去のパフォーマンスをもとに各資産クラス間の相関関係についても説明を行った。

また、投資信託の内容や基準価額チャートなど各種情報の掲載場所を紹介。運用実績のレポートについても解説を行った。

セミナーの資料はイントラネットにアップされ、すべての加入者が閲覧できることも伝えた。

参加者に対し、掛金の配分、残高の配分・預け替えの仕方も具体的にレクチャーし、セミナーは終了した。

担当者に聞く今後の課題について

同担当者が現在課題として考えているのが、「『キャッシュ保有層』をどうするか」だという。

「当社の全加入者の約4割を占める『キャッシュ保有層』にいかにして運用に興味を持ってもらい、アクションしてもらうかが大事になってくると考えています。

さらに、DCの初心者が運用における最初の一步を踏み出すための商品として、リスク抑制型商品の追加などは、今後検討の必要を感じています」。

DC

記事に関するご意見・ご感想やDCに関するお取り組み等については

dcjoho@npo401k.org

までお願いいたします。